

はっする



福井県嶺南振興局若狭健康福祉センター

○感染症トピックス E型肝炎

<豚でE型肝炎?> 6人感染1人死亡 豚の生の内臓が原因か

北海道北見市の焼き肉店で8月に食事をした客6人が、E型肝炎ウイルス（HEV）に集団感染し、1人が劇症肝炎で死亡していたことが、厚生労働省や道の調べで分かった。

予防・・・E型肝炎ウイルスは熱に弱く、肉を十分に加熱すれば感染は防げます。

今回、豚の内臓などが生焼けて感染した可能性があります。これまで野生のシカやイノシシの生肉を食べて感染した例はあるが、流通食品が原因と確認されたケースはなく、道庁では感染源特定を急いでいます。

E型肝炎とは肝炎の一種だが、B型やC型肝炎のように慢性化することはありません。大半は無症状のうちに治るが、感染者の約1%が劇症化して死亡します。

衛生状態の悪い途上国では飲み水が主な感染源ですが、日本では、野生動物の生食が原因と見られるようになっていきます。若狭管内では猪の肉料理が有名ですが十分な過熱を行えば感染は防げます。 [11月28日]

～医療機関のみなさまへ～

E型肝炎（4類感染症）の届出について

E型肝炎と診断された場合医療機関は保健所に届出が必要です。

《臨床的特徴》

途上国では主に水系感染であるが、我が国では汚染された食品や動物の臓器や肉生食による経口感染が指摘されている。潜伏期間はA型肝炎より長く、平均6週間といわれている。臨床症状はA型肝炎と類似しており、予後も通常はA型肝炎と同程度で、慢性化することはない。しかし、妊婦（第3三半期）が感染すると劇症化しやすく、致死率も高く20%に達することもある。特異的な治療法はなく、対症療法が中心となる。

《届出基準》

診断した医師の判断により、症状や所見から当該疾患が疑われ、かつ、以下のいずれかの方法によって病原体診断や血清学的診断がなされたもの

・病原体の遺伝子の検出

例、法による遺伝子の検出 RT PCR

・血清抗体の検出

例、特異的抗体が陽性のもの IgM

四類感染症の届出様式を必要とされる方はPDF ファイルを送りますのでメールにてご連絡ください。

○SARS

SARS ワクチン臨床試験終了間近、抗体も確認 中国

人体を対象にした新型肺炎 SARS ワクチンの臨床試験の第一段階がまもなく終了する。ワクチンの接種を受けたボランティア 36 人の容態も安定しており、ワクチンの安全性が証明され、抗体が作られていることが確認された。

すべてのワクチンが市場に出回る前に、安全性、効力などを確認する必要があるという。そのため、研究結果が予期目標を達成しているかどうか、確認した後、第二段階の臨床試験突入する方針です。

臨床試験の結果、36 人のボランティアの体内には、今後、科学者のスタッフは、ボランティアの体内に作られた抗体を接種して定量検査を行なう予定。すべての臨床試験が終了すれば、中国は世界初の SARS ワクチン臨床試験実施国家となるという。

[中国情報局 12月7日]

塩水の霧の単純な吸入、SARS など感染拡大の防止も

米国とドイツの科学者チームは29日、塩水の霧を単純に吸入することが、インフルエンザや結核などの感染拡大を防止する一助になる、とする研究結果を発表した。

こうした研究結果は、重症急性呼吸器症候群(SARS)やインフルエンザといった伝染性の病気について効果があるという結果となった。

[11月29日 ロイター]

光触媒効果でSARSウイルスの感染力低下

ノリタケカンパニーリミテドは6日、東京医科歯科大学と共同で、酸化チタンの光触媒を使って新型肺炎の重症急性呼吸器症候群(SARS=サーズ)ウイルスの感染能力を10分間でなくせることを実証したと発表した。光触媒が同ウイルスの感染力を失わせることを国内で実証したのは初めてという。東京大学で14日に開かれる光触媒関連学会で研究成果を報告する。

実験ではノリタケ独自の酸化チタンのコーティング方法で、酸化チタン膜をガラス上に作製し、SARSウイルスを添加して紫外線を照射した。照射から10分後に同ウイルスを99.9%不活化し、15分以上照射すると、同ウイルスの感染力を検出できなくなることが分かった。「光触媒の強い酸化力でウイルスの外皮部分を破壊したため」(同社)という。

[12月7日 日本経済新聞]

昨年は6月頃に世間を騒がせていたSARSですが、終息以来そのことを聞かなくなりましたが、SARSウイルスは冬、寒い時期に活動しやすいため、冬到来シーズンにそれに関連するようなものが発表されています。

当センターでは県の所有するアイソレーター付き搬送車を用いて所内で取り扱いの訓練を行いました。アイソレーターとは1類感染症などが発生した場合に搬送を行うための大きなカプセル状のものです。それを動かすコツがかなり要ります。

定期的な訓練や対応の確認はやはり大事ですね。



○インフルエンザ

全国的には集団発生は散発的で少しずつ患者が増加してきているが、過去5年間と比較して未だ少ない状況です。今シーズン初めて宮城県に注意報がでました。(11/22~11/28)

昨シーズンには同じ時期に山形で発生し、年明け頃から注意報1月から2月にかけて猛威を振りました。

感染症発生状況を即座に 厚労省が新システム構築

厚生労働省は感染症の全国的な発生把握システムを見直し、集計からデータ公表をほぼリアルタイムで可能にする新システムを構築する。早期の予防対策につなげて二次感染や集団発生を防ぐのが目的。

国の保健所や衛生研究所から専用回線を通じてパソコンで発生状況が入力されているが、データ処理に時間がかかるため、公表まで2日程度かかる。[共同通信 - 12月6日]

現在の当センターでは月曜日に前の週の土曜までの感染症(小児科感染症(咽頭結膜熱、水痘など)、インフルエンザ)の発生状況を定点の医療機関から FAX にて報告をいただき、その情報を専用回線で厚生労働省へ送るようになっていました。

その他の感染症はその都度医療機関からの届出をいただき同じようにデータ送信を行います。

～インフルエンザ情報収集に役立つもの～

国立感染症研究所感染症情報センターホームページ：<http://idsc.nih.go.jp/index-j.html>

・インフルエンザ流行レベルマップ http://idsc.nih.go.jp/disease/influenza/inf_keiho/index.html

厚生労働省健康局結核感染症課から「平成16年度版インフルエンザQ&A」がメールにて送付されました。

ご希望の方は、PDFファイルを添付しメールを送信または資料をFAXしますので、その旨ご連絡ください。

- ・インフルエンザQ&A（一般向け）
- ・インフルエンザQ&A（医療従事者向け）

管内インフルエンザワクチンの在庫状況等報告（～11月29日）

協力機関数・・・26機関 接種可能本数・・・1985本

現在管内の予防接種実施機関のワクチン在庫には余裕がありますが、接種を希望する場合には実施可能か直接医療機関へ問い合わせることが必要です。

もうインフルエンザの予防接種はお済でしょうか？センターの職員も予防接種を受けたものが多くいます。まだ管内においては流行していませんが、昨シーズンでは若狭が県内で一番最初にインフルエンザの集団発生が起きました。

ウイルスの型もめずらしいB型のウイルスでした。

福井県感染症発生動向調査速報（11月下旬）

全数報告の感染症・・・坂井健康福祉センター管内の医療機関より3類感染症である腸管出血性大腸菌の発生の届出がありました。

小児科定点報告・・・11月の定点報告では管内の患者の報告はありませんでした。

・福井県内でも福井健康福祉センターと丹南健康福祉センターの報告のみです。（～12/6）

編集後記

今回の「はっする」はいかがでしたでしょうか。今回はSARSとインフルエンザの情報を多く掲載しました。今までは、インフルエンザについての情報が多かったのですが、最近になってSARSに対する情報が多くアップされるようになりました。いよいよシーズンが始まった感じがします。今シーズンも発生しなければよいのですが、

この情報誌を作成していく中で、意見や情報などを関係機関より教えていただく機会が多く得られるようになりました。「こういう情報がほしい！」や「こういう情報があるがどうです？」などの意見お待ちしております。メールでもFAXでも電話でもかまいません。

まだまだ自分は勉強中の身なので特に情報を頂きたいと思っています。

よろしく申し上げます。

発信者 若狭健康福祉センター 健康増進課 担当 嶋田 泰大

Tel 0770-52-1300

Mail y-shimada-bm@ain.pref.fukui.jp

福井県嶺南振興局若狭健康福祉センター(若狭保健所)

Tel 0770-52-1300

FAX 0770-52-1058

Mail w-fukusi-c@ain.pref.fukui.jp